

年・頭・所・感

新元号と新たな 技術士制度の時代

平成最後の新年を迎えました。皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年の漢字は「災」でした。北海道胆振東部地震を体感された皆さんは、「やはりね」と言う結果ではないでしょうか。実は2004年の漢字も「災」であり、新潟県中越地震や福井豪雨などの自然災害が多く発生しました。新年早々の話題としてはふさわしくありませんが、昨年の甚大な災害の頻発を考えると今年こそは安全・安心な年であるようにと切に望みたくになります。

さて、今年是新元号に改元されます。天皇陛下の生前即位は約200年振りだそうです。改元の年は「現元号のうちに」あるいは「新元号のもとで」という二ーズに向けたあやかり商戦が盛んになるそうです。結婚式場やホテルでは「あやかり婚」に向けたプランが続々登場してきているそうです。また、「平成」を記した大判・小判の販売もはじまり、クリアファイル、ジグソーパズル、ノートなども売れているそうです。

全国で唯一、平成の名がついたJR平成駅(熊本市)の切符や駅舎の写真も話題を集めているそうです。そう言えば、昔十勝にあった愛国駅、幸福駅の切符も「愛の国から幸福へ」と言うキャッチフレーズで随分と売れました。

この改元にあやかる形で技術士、技術士会の飛躍の年になれば良いなあと思い、元号に使われた漢字(71字)を調べましたが、技・術・士・科・学のいずれも使われていませんでした。確かにこれらは元号に向いている漢字というものではなさそうですし、冷静に考えてみると「公衆の安全、健康及び福利を

森 隆 広 (もり たかひろ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人

日本技術士会北海道本部 本部長



最優先に考慮する」技術士の活動は、あやかりビジネスとは離れた位置にあるものでした。

ただ、新たな元号時代の到来と時を同じくして技術士制度が大きく変わろうとしています。技術士法を改正して更新制度を導入する為の具体的な検討が今年から文科省で本格化する予定です。技術士の資格を取ることがゴールと思われた時代は終わり、技術士は継続研鑽の下で如何に己の技術を維持・活用するかが重要視される時代に移ろうとしています。

ここで、このような技術士制度の改正に対して過敏になる必要はありません。私達は既にICTの活用無しでは生活ができない状況になっていますが、新元号の時代は、進化するICTの活用によって仕事の仕方や継続研鑽の形態も変化し、効率化していくものと思います。特に高速度通信のインターネットがインフラとして私達の生活に深く根ざして行き、IoTやAIが益々発展することにより、技術情報の入手や継続研鑽の機会に対する大都市と地方との地域間格差も減少・解消されていくと思います。

将来シンギュラリティが起きるのかどうか分かりませんが、今後も技術士・技術者はICTを駆使して仕事して行くことになると思いますので、専門分野と同様にその辺の技術・知識も常に持ち合わせておくことが求められるでしょう。

技術士制度も含めて新元号の時代はどのように世の中が変わるのか、まずは2020年のオリンピックイヤーを契機に変化していく様々な設備・システム(モビリティ、電子マネー、5G、VR、…など)の進化を参考に状況を見ていきたいと思っています。